



日常の景色にある SDGsを見つけてみる —その7

亀岡のまちを歩いていると、たくさんの看板や標識が目に入ります。これらは、私たちがお店や公共施設に行くときにとっても役に立ちますが、誰もがひと目で意味が分かるものばかりでしょうか。

例えば、市内には1000人を超える外国



▲ 私たちが目にする標識にもさまざまな工夫が凝らされていることがわかる (撮影 = 江見彩香)

籍の人が暮らしていますが(※注)、日本語を十分に理解できる人ばかりではありません。もし、自分が日本語を十分に理解できなかったとしたら、漢字だけで書かれている標識の意味をすぐに理解できるでしょうか。このように、言語が障壁となって、外国籍の人などが、日常生活に必要な情報を十分に得ることができない状況に置かれる可能性もあります。

その解決に向けて、多言語で表記するだけでなく、日本語が得意でない人にもわかりやすいよう配慮した「やさしい日本語」を併記したり、一目で意味が分かる絵や図形などを加えたりすることも解決に近づく方法の一つです。こうした視点は、SDGsのゴール10「人や国の不平等をなくそう」に関係しています。

また、ガレリアかめおかには「かめおか多文化共生センター」が設置されており、外国籍の住民等が困っていることや暮ら

しの悩みなどを相談できます。

誰もが住みやすい亀岡にするために、私たちも自分にできることがないか日常生活の中から探してみてはいかがでしょうか。

注) ※京都府ウェブサイト「京都市町村別国籍別外国人住民数一覧表」・令和3年12月31日現在を参照
<https://www.pref.kyoto.jp/kokusai/documents/kokusekibetsu.pdf>

高木 超 (たかぎ・こすも) 文章

▶ 慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 特任助教
亀岡市参与 (SDGs アドバイザー)

江見 彩香 (えみ・あやか) 写真

▶ 元ファインダー女子広報部
女子学生による亀岡のPR隊
“ファインダー女子広報部”
(2018-2019) として活動。
現在、プロのフォトグラファー
として奮闘中!

